

## 【クラブ野球リーグ構築5か年計画】報告書

日本野球連盟東北地区連盟

担当者:事務局長 村井秀雄

県名(クラブチーム数)	報告内容
青森(5)	<p><b>球場</b> 青森県地方で、例年、公営球場を使用できるのは4月中旬からとなっており、様々な大会が一斉にスタートするため、球場の確保が困難であり。また、学校等の球場借用は特に安全面を考慮する必要があるのではないか。(球場外等)</p> <p><b>クラブ自主リーグ</b> クラブチームだけのリーグ戦となると、現4チームになるがメンバー構成をしない限り出場できないチームの扱いをどうするか?。県内全チーム参加の3地区持ち回りで試合をしたとしても、片道(車)2時間~3時間の移動で日帰りを考えると1試合が限度か?(選手の安全面考慮)</p> <p>尚、現状のクラブ4チームでは、2地区県北の為1時間ぐらいの移動となり可能だが試合運営をするのに、開催地側のチームがやるとなると、試合出場者がきびしくなる。</p> <p><b>審判員</b> 依頼は開催地側のチームでお願いすることになるが、リーグ戦が決定した場合県連盟からも依頼(通知)したいと思います。</p> <p>例えば、審判2氏を依頼し、他はチームから出す方法もある為、検討したい。</p>
秋田(8)	<p>現在、連盟主催で1年間(シーズン)を通してリーグ戦(魁新聞社杯)を実施しており、年間の組合せによって当該チームの自主運営方式を採り入れている。新たにリーグ戦を組まなくても良いと考えている。</p>
岩手(24)	<p>クラブ野球リーグ構築理念には賛成であり、前向きに検討する。</p> <p>都市対抗、日本選手権、クラブ選手権の3大会を含め、公式戦を11大会実施しており、さらにクラブリーグ戦を行うには日程、チーム負担、球場、審判員、記録員、放送員の手配を含め現状では無理がある。</p> <p>チーム数が多く、全チーム参加のリーグ戦は不可能でありチーム所在地域別に3~4グループに分けるか3~4のクラス別(チーム力)にする方法が考えられる。クラス別にする場合は数年の実績を加味するためスタートまでに数年を要する。各大会1回戦で敗退し、年間3試合程度で終わっているチームが5チーム程あるためそのチームを中心にリーグ戦実施は可能と考える。チーム同士で合同練習(オープン戦)し、試合数不足を補っていることもあり、いづれにしても全チームの意見を最優先に考えたい。</p> <p>自主運営については球場の手配、審判員、公式記録員、放送員の確保、試合消耗品(ボール、ロージン等)をどうするか等、困難が多いと思う。社会人野球の伝統から逸脱する大会になるのでは?との危惧があり、あくまでも連盟主導で実施することに意味がある。</p> <p>クラブチームよりも都市対抗、日本選手権、岩手県で行っている岩手県知事旗、毎日旗大会のみの出場機会しかない企業チームの試合数不足を懸念している。</p>

県名(クラブチーム数)	報告内容
山形(6)	<p>山形県野球連盟は社会人、軟式を総括した組織であり、大会数の多い軟式野球を主体に運営がなされている。</p> <p>社会人野球関係は都市対抗、日本選手権、クラブ選手権の予選大会のみ現状であるが県連盟の経費支出では軟式野球に依存して大会開催を行っている状態である。</p> <p>加えてクラブチームの構成は軟式野球と社会人野球の双方に登録して試合に臨んでいる実情から、大会日程によっては軟式野球優先(職場チーム優先)のため、クラブチームとしての人員不足(選手不足)は表れ試合欠場も見られ、6チームのクラブチームのうち休部状態のチームが2チームある。</p> <p>チームの運営経費が順調に推移しているチームは限られ、現在の難しさはより、今後は益々厳しい状況に置かれると予想され、チーム存続さえ立ち行かないのではと危惧している。</p> <p>このような現況下でのクラブリーグ自主運営は無理ではと考える。</p>
宮城(13)	<p><b>球場の手配</b> 現在の3大会及び県会長杯等クラブの大会は平日開催が出来ない状況である。</p> <p>リーグの球場手配を休日に確保することは困難である。(休日は軟式・少年野球等と重複)</p> <p><b>自主運営</b> 3大会出場の参加料及びクラブ運営の経費捻出に各チーム苦勞しており、自主運営等は出来ない。</p> <p><b>選手の手配</b> 軟式野球と重複し、現状でも確保は難しい。(1試合・12名程度で試合に臨むチームが殆どである。) チーム要望として、1ヶ月に2大会はやめて欲しい。という意見もある。残念です。</p> <p><b>審判員・記録員の手配</b> 審判及び記録・放送員は各自仕事を持っており、今以上の大会への拘束は難しいのでは。(審判員は企業チームのオープン戦で育成している)</p> <p><b>各チームの社会人野球参加への考え方</b> 各チームとも、高校、大学野球を卒業して、硬式野球に触れたいという考え方(愛好会)でクラブ野球を実施しているチームが多い。クラブチームを通じて地域の振興を目的に参加しているチームは殆どない状況である。</p>
福島(22)	<p><b>現状は</b> 現在クラブチームが22チーム活動中であるが、財政状況が厳しいクラブチームが半数あり、現状維持することが精一杯である。</p> <p>リーグ戦を行うにはチーム数が多すぎる。</p> <p>役員・審判・会場等を確保することが困難である。</p> <p>福島県においてはクラブチームが多いため、支部予選及び支部大会の開催もあるため、現状では試合数が多くなりすぎる。</p> <p><b>今後</b> リーグ戦を行う場合は、クラス分けを行い同好会的な楽しみを優先するチームを除いて、上を目指しレベルアップを図るチームだけで数を制限できれば開催も可能と考える。</p>

## クラブ野球リーグ構築5ヶ年計画(案)

東海地区連盟  
押谷 武治

## 1. 推進スケジュール

年度	時期	実施項目
2008年	3月	第1回エイデンカップリーグ前半戦開催
	10月	第1回エイデンカップリーグ後半戦開催
	11月	エイデンカップ反省会と2009年度計画立案
2009年	2月	リーグ運営委員会の設置と第1回検討会開催
	3月	第2回エイデンカップリーグ戦開催(愛知県4チーム)
	3月～	運営委員会開催(3～5回随時) ・三重県(4チーム)のリーグ戦参入検討
	11月	エイデンカップ反省会と2010年度計画立案
2010年	3月	第3回エイデンカップリーグ戦開催(愛知・三重県8チーム)
	3月～	運営委員会開催(2～3回随時)
	11月	エイデンカップ反省会と2011年度計画立案 ・岐阜県、静岡県 of リーグ戦参入検討
2011年	3月	第4回エイデンカップリーグ戦の開催
	11月	組織、運営の見直し
2012年	3月	第5回エイデンカップリーグ戦の開催
	7月	運営見直しと定着化

## 1. 隣県との協議

- ◇三重県については2010年度にエイデンカップに参入の予定。
- ◇岐阜県はクラブチームが発足した時点で参入の検討。
- ◇静岡県は2009年度にクラブ春季大会をリーグ戦で行うことを検討する。

## 2. 課題(検討事項)

- ①リーグ運営委員会の設置
  - ・各チームから代表者として1～2名人選し、リーグ戦全般の決め事を取り仕切る。
- ②(株)エイデンとの協議・すり合わせ(予算、日程など)
- ③リーグ戦の成績を都市対抗、全日本クラブ予選、及び次年度大会へ反映させる事の検討。
- ④岐阜県、静岡県 of クラブチーム参入の可能性検討
- ⑤静岡県は東西に長い為、浜松地区のケイとヤマハ発をエイデンに入れる事も検討。

地区	都府県	現状・計画・提案	問題点・課題	その他
北海道		ステップ1:札幌支部でリーグ戦方式導入へ検討 ステップ2:各支部(函館、旭川、室蘭)で導入への検討 ステップ3:2部制(春、秋)導入への検討	①企業チームの参加 ②審判員、記録員、役員の日程及び球場の調整 ③北海道の広範囲への移動に係る交通費負担対策	
北信越	福井・石川・富山	2008年度にクラブ3チームによる交流試合を実施した。2チームしか集まらない場合は地元大学チームも入れて交流戦を実施。来年度以降も3チームがそれぞれの地元で年3回交流戦を実施していく予定。今後、隣接の滋賀県チームとの交流戦も考えている。		
	新潟	福島県チームとの交流を計画中。(2008年度は中止となった。)また、他県から有力チームを招待して県代表2チームを入れたトーナメント大会を検討している。		
	長野	佐久のクラブチームは、隣県(山梨・群馬)チームと交互に交流試合を実施している。山梨では他県からの参加もあった。今後は山梨県のクラブチームとまとまって交流戦を実施していきたい。		
近畿	京都	現在の加盟クラブチーム数は9チーム。各クラブチームとも5カ年計画の方向性には賛同するも具体的な計画により詳細を詰める必要あり。全クラブチーム参加ではなく、参加できるクラブチームによるリーグ戦からスタートする。2009年度中に府連盟として導入計画を作成し、2010年に各クラブチームで検討。第一ステップとして2011年度に参加できるクラブチーム4チーム程度から開始する。	リーグ戦実施に当たっての課題は次のとおり。(1)運営資金調達…球場使用料、ボール代、審判経費など。(2)球場の確保…公営球場、企業チームの球場、大学の球場の借用を検討したい。現行の公式試合とのスケジュール調整	
	和歌山	現在の加盟チームは1チーム。県内の北部及び南部にクラブチーム立ち上げの動向あり。ただし、独立リーグ発足に伴い流動的となっており、同好を見守っている状況。現在、県内チームが1チームであれば、大阪または奈良県チームとの連携を検討する。	他府県への移動にかかる交通費を含めた経費面が課題となる。また、関西独立リーグの動向も見守りたい。	
	奈良	近畿地区内の30数チームのクラブチームの内、いわゆるBクラスのクラブチーム(地区の二次予選に出場したことがない)10数チーム、各府県の上位チームを除くを対象に「近畿クラブ野球交流大会」を実施している。(近畿地区主催、奈良県主催)普段あまり勝てないレベルのチーム同士を対戦させ、優勝チームには次年度はうえのクラスを目指してもらおうとされており、参加チームには好評を得ている。また、奈良県内では大学チームも含めてなら県知事杯大会も実施し賛同を得ている。	「クラブ野球リーグ構築」について奈良県としては、「複数のクラブチームが共同で運営する。」と「リーグ運営に必要な労力は各クラブチームが提供する。」等について実行不可能である面(時間、経費、労力等)が多いと考える。また、現状の「都市対抗一次予選」、「クラブ選手権一次予選」、「日本選手権一次予選」、「近畿クラブ交流大会」、「奈良県知事杯大学社会人大会」の土日祝日開催への出場で年間の試合数は十分である。この他に大会(またはリーグ戦)を開催については人的、経費的に負担が大きく再考すべきと考える。もし必要があるとすれば、A級とB級に分けていわゆるB級クラスのチーム対策を連盟として実施すべきと考える。また、クラブチームは企業チームが持つ目的、目標とは大きく異なっており、所属する地域にあった施策があるものと考えている。	現状のクラブチームの設立、目的、目標の違いを認識しておくべきと考える。第一に都市対抗、日本選手権出場を目的、目標に設立し活動しているチームと同好会的に硬式野球を楽しんでいるチームがあることである。全国300あるクラブチームをA級、B級に分け、A級は全国大会を目指すグループ、B級はそれ以外のグループとし、それぞれの入れ替えも含めて各地区ごとそれぞれグループにあった振興計画を構築すべきと考える。
	大阪	2008年度より6チーム参加によりリーグ戦をスタート。6月～11月にかけて実施。大阪府連盟が表彰関係を支援。	球場及び審判の確保、かかる経費について連盟の支援をいただきたい。	
	兵庫	リーグ戦方式を採用する。球場、経費を勘案しながら試合数を増加させていく。(当面は1試合総当たり)リーグ戦結果により、JABA大会への出場権等を考慮する。県連盟主導で実施する。リーグ戦結果により全日本クラブ選手権予選、都市対抗予選に充当する。	選手の勤務状況により試合数増加は困難になるが、対戦チーム同士の調整により、試合数増に努める。ただし、試合数増により球場の確保や経費関係の課題が生じる。	
中国	岡山	隣接する県も含めてオープン戦として開催している試合を進展させることでリーグ戦につなげることを目指す。中国地区を2分割し、上位大会への出場権を与える。公式試合が増えてレベルアップに繋がる効果がある。	クラブチームであってもクラブ選手権の予選に出場していないチーム(倉敷オーシャンズ)の扱い方。自主運営に賛同協力すれば、経費は最小限にとどめられる。ただし、球場の確保(特に週末)、審判員、財政面に課題がある。総論的に開催実現に向かって努力はするが、上位大会に権利を与えることについてはチーム同士の運営に支障をきたす。	
	鳥取	連盟発足から1年、実績は0に等しい。所属チームは1チーム。県連盟所属審判員は0、記録員も0である。卒業後も硬式野球を続けたという若者の受け皿という思いでチームを結成。鳥取キタロウズというチームを中心に3年間頑張ってきたが、理想と現実のギャップを思い知らされている。	特に全国でも最小の人口、選手の確保はもとより球場の確保や資金面、クラブ野球に対する県民の理解度も低く、チーム存続にはネックとなる課題が山積である。加えて1月から4月は環境の劣悪さも相まってレベルアップも十分認められない状況です。そんな悪条件を承知で発足したからには今後必ずにおいてレベルを上げ世界の足手まといにならないよう頑張っていく所存です。	従って、当面は県連盟並びにチームとしての意見や要望は差し控えていただきたい。決定事項はしっかり守り、クラブチーム及び社会人野球の発展に精一杯努力していきたい。
	広島	広島県としてもクラブリーグ構築に参加したいと考えている。	スポンサーを探さなければならない。参加料は審判料と球場使用料程度としたい。球場及び審判の確保に課題あり。開催場所は県の中央部としたい。	

山口	(1)実現させるためには、各クラブチームがまずこの計画を実行するという意思決定をすることが必要である。どうしてもやろうとすると問題点ばかりを考えてしまうが、問題点は問題点とし、各クラブチームがこの計画自体に賛同し、話し合いのテーブルにつき、協議することから始まる。(2)全国のクラブチームがこの計画に賛同し協力することが望ましいが、まず賛同するチームだけでも実行することが必要である。(3)クラブ野球リーグを実現させるためには、地域との融合が不可欠である。スポーツ少年団、中学校野球連盟、高校野球連盟、大学野球連盟、市町村等との連携も必要である。	(1)現状では公式戦が少ないことから、週末を中心にスケジュールを組み年度計画を立てて実施できれば、公式戦が増え、レベルアップにつなげることが出来る。(2)山口県、年明の登録チームは全てクラブチームであるが、5チームの内クラブ選手権に出演しているのは2チームであり、3チームは出演していない。(3)その3チームはこのリーグ戦計画に入るのか。また、賛同しないクラブチームがある場合どう扱うのか。(4)球場の確保、審判員の手配、経費面の課題をどのようにクリアするか。(5)自主運営は現実的に問題が多すぎる。最終的に県連盟に負荷をかけることになるが、クリアできるか。(6)総論には賛同するが、各論に課題が多い。	
四国	四国地区には愛媛、香川、徳島に合計3チームがあるが、今後クラブチーム数が増えない限り、公式大会方式は現行のままでよいと考えている。現在、春季大会、都市対抗、クラブ選手権、JABA四国大会、日本選手権に加え、高砂大会、徳山大会、びわこ大会に参加しており試合数は十分である。	クラブチームも公式戦として10から12試合があり、他地区の大会への遠征を含めると14から15試合になる。従って四国地区としては現状の試合方式のままでよいと考えている。	
九州	福岡	意見書の提出はなし	
	佐賀	佐賀県のクラブチームは、都市対抗及び日本選手権とも一次予選が長崎との対戦になった。幸い土日開催にもらったため、特段問題はなかった。しかしながら、万が一にも二次予選に進んでしまった場合、平日に試合をすることは容易ではなく、辞退せざるを得ない場合もあります。もし、土日以外で企業チームと対戦する場合その差は歴然であり、もし土日にしていただければ少しは希望が持てると思います。そんな環境から、クラブチームの公式戦を増やすのであれば是非土日に試合数が増えるリーグ戦を実施していただきたい。リーグ戦により試合数が増えレベルアップに繋がると考える。	
	大分	企業チーム優先の発送による運営方針を強く感じる。企業とクラブチームの運営組織も分離させるべきではないか。社会人野球は規約が多すぎて野球をする環境が狭くなるのではないか。もう少し柔軟に対応できる部分があってもいいと考える。	大会スケジュールについて、土日中心の開催を検討してほしい。特に雨天順延の場合など翌週まで空ける等の対策を望む。有料試合開催に際しての手続きの指導が不親切であり改善を望む。都市対抗や日本選手権予選に際し多額の参加料を徴収されているが、平日対応できないのであれば最初から出なくてもよいと指摘されたこともある。
	宮崎	クラブチームが全国的に増えた中でクラブチームのみによる大会がクラブ選手権一つしかない現状で、このリーグ戦が実現すれば、クラブチームにとって大変な活性化になると思う。	一方で、リーグ運営の方法や資金繰りについての問題も大きい。ただ一番大切なことは、しっかりとしたルールやマナーを作り、その責任と義務を出来るような組織作りをしていくことが大切であると考え。各地区連盟と各加盟地方団体が連携をとりクラブ野球リーグを実現していただきたい。
	沖縄	クラブ野球リーグ構築の理念については当連盟としても認識できるものである。クラブチームの現状は、環境面(人材・資金・物質・時間)で厳しい状況下であり、同計画を導入した場合においては、参画できるチームと出来ないチームに二分化されることが予想される。多くの国民に社会人野球を普及させる観点から、現状を把握し、時間をかけて進めていく必要があると考える。	

クラブ野球リーグ構築5カ年計画に関する意見書

都県	球場の手配	リーグ戦試合日程の作成	審判員の確保	記録員の確保	試合球	経費負担	運営	規約(規則)等	その他
茨城	クラブチームは県内各所に点在している。メインとなる球場の確保、また、地域性や日程に合わせた球場の確保が必要。 検討事項:各年度の幹事チーム、開催場所、借用手配、球場使用料の負担、支払い手続き	都市対抗、クラブ選手権、日本選手権とは別として自主運営リーグを取り入れる。2試合連戦を希望する意見が多数であったが、1試合連戦でも15日間が必要であり、今後、各チームの実情を調査し具体策とする必要あり。	自主運営に当たっては、連盟所属審判員に加えて各クラブチームから代表者が必要。県連盟主催の審判講習会(年3回実施)に受講させレベルアップを図る。当面は県連盟所属審判員を中心にして実施とするが将来的にはクラブチーム選出の審判員をメインに考えたい。	各チームマネージャーを対象とした記録講習会を実施し、記録員の確保とレベルアップを図る。 検討事項:講師及び講習会の開催、頻度	当該チームの持ち寄りに対応することも可能であるが、各クラブの運営資金を考慮し不足分は県連盟で負担することも検討。	自主運営リーグの運営に当たっては、各チーム負担を原則とするが、10チームによる総当たり戦を実施した場合の概算費用は総額238万円(15,8万円/日)であり、チームと連盟の負担割合、またチーム負担の範囲については慎重に検討する必要がある。	各クラブチーム側の意見としては、都市対抗、クラブ選手権、日本選手権とは別に自主運営リーグを実施し、レベルアップを図りたい意向であり各チームの運営を原則とする。チームから選出する運営スタッフと連盟スタッフと協力して運営に当たる体制を検討する。	各クラブチームが自主的に運営することを踏まえ、開催要項の作成に当たっては各クラブチームから委員を選出して議論の上、規約を設け、理事会及び総会で承認する方向で検討する。	
群馬	各チームとも課題としてマークしている。現状、球場の手配は、県連盟が申し込み、代表者が調整会議に出席し日程の確保が出来ており、各大会の日程も決定している。軟式の開催が多く新たに球場を確保することは難しい。	球場の確保、審判、アナウンス、カウント、記録、ボール拾い、ボール、ロージン、カップ等の手配は県連盟により行っており、クラブチームとして日程の作成には自信が持てないのではないか。	最悪、球審だけで塁審は各チームより出させてもよいと考えているのではないかと。	各チームともマネージャーが担当しており、問題な時と受け取れる。	当該対戦チーム同士で出合って試合をすると考えているようである。	球場使用料、審判員交通費、アナウンス、カウント、記録、ボール拾い等の協力にかかる謝礼や弁当代など不安に思っている。	運営に自信が持てないようである。	実施する場合、最低限おき役を定める必要がある。	
栃木	現在11チームが加盟。1試合連戦当日としても55試合、1日2~3試合を2つの会場で実施しても10週が必要である。一方で硬式球を使用できる球場を平日で押さえることは不可能。逆に選手が集まれない。	現状の公式戦の日程を鑑みると約10週~20週を確保しなければならぬ。チームの希望より会場の都合に合わせて形での試合日程作成になってしまう。	現状、チームOBの審判員はほとんどいない。今連盟に登録している審判員が上記日程に全て合わせると負担が集中する。各市にある審判部との連携が必要。	現状、宇都宮の審判部と全足利のマネージャーが担当しているが、6名ほどのメンバーであり、リーグ戦を加えると負担が集中する。	チームにより負担の考え方が異なるが、2試合1ダースとしても30ダース必要となり、1チームあたりの負担は3ダース、金額で4万円ほど。多少偏ったボールの使用ということから、理解を得ることが難しいと思われる。	連盟の運営は現在の公式大会の予選を消化することで精一杯でありこれ以上の大会補助は難しい。各チームが自己負担で対応する以外に方法はない。各チーム負担がどの程度であれば可能か調査が必要である。現状、技術レベルだけでなく運営への関わり方、費用負担し得る額など考え方に大きな違いがある。	各地区の大学リーグの運営方法に習い検討していく。あくまで自主運営を基本とするのであれば、各チームの自立を促すことも必要になっていく。	各地区の大学リーグの規則に倣い検討していくほかないと思われる。	
千葉	各チームとも自主運営の課題のトップに球場の確保を挙げている。(ア)各チームが硬式野球の出来る市営球場を確保する。(イ)県内の企業チームのグラウンドを借用する。(JFE、新日鐵)(ウ)県野球連盟が公営球場を確保する。以上で年間どこまで球場を確保できるかがポイントである。	県内クラブチーム側は2試合連戦を希望しているが、休日では組めない事情を考慮すると球場を手配の上、(ア)現7チームによる1試合連戦21試合でスタートが現実的。(1日3試合7日間)	千葉県野球連盟には29名の審判員がおり、数的には問題はないが経費面を考慮し、(ア)球審を県連盟の審判員、(イ)塁審は各チームで。	現状各チームとも正確に記録できるマネージャーがいない。(ア)各チームマネージャーに対する講習会を実施し、各クラブチーム内で確保する方向とする。	(ア)1試合1ダースの使用とし、両チームが半ダースを出す。	必要経費:審判5,000円、球場使用料10,000円、諸経費5,000円で合計20,000円/試合。各チームが1試合10,000円負担で運営したいところである。	クラブチームで組織をつくり、自主運営を基本とする。ただし、当面は県連盟のバックアップが必要。(グラウンド、審判)	(ア)大会実施要項を作成し、(特にペナルティー)規律ある試合とすることが大事。(イ)上位チームには各種大会への出場等	
埼玉	年度当初の予定に基づき、協会事務局において県内各球場調整委員会におき、各関係団体との日程調整のうえ年間決定をみる。	理事会(各チーム代表者)において全チーム参加の元日程作成し提出。	日程表に基づき、審判部に要請。同部において割り当て実施し連運する。	試合当日の当該チームにて、協会において編成作成し連運する。	原則的に両チームにおいて持ち寄りが基本であるが、協会より新球・再生球を準備してチームの負担軽減を図っている。	各試合1チーム2万円とし、協会へ納入している。以後の管理は全て協会が行っている。	当日の当該チーム及び前後のチームにて実施している。協会は理事等を派遣し総括運営を担当、全体指揮に当たる。	特に設定はしていない。	現実問題としてチームグループによる会場の予約・審判員の確保等は無理である。(当県ではリーグパンフレットも500部作成している。)
東京A	各チームでの独自の確保は厳しい。企業チームの遠征や休日時に利用させていただきたい。	クラブ選手権、都市対抗とは別で考えている。6月~11月で行うのがベスト。	各チームで出し合ってもよいが、経費は分担することとして連盟に派遣をお願いする。	各チームマネージャーが記録し、事務局で集計。	1試合各チーム1ダースずつ持ち出す。(計2ダース)	参加チームの会費でまかなう。			
東京B	企業チームのグラウンド使用に対する協力、市町村の公営球場確保に対する支援をお願いしたい。	1試合連戦(7チーム⇒合計21試合⇒1日3試合⇒7日間)案、各リーグ上位2チームで決勝トーナメント(4チーム⇒3試合⇒1日)案	2審、または3審での派遣を東京連盟にお願いする。また、塁審は軟式連盟審判員にも協力を要請する。	各チームで必ず1名を準備する。(リーグ参加資格として正しくスコアを記入できるチームであることが望ましい。)	公認球にこだわらず、各チームが新球を用意する。(ボールの検査は審判にゆだねる。)	各チームが持ち合う。また、リーグ戦を援助、支援していただけの連盟、企業、地方団体を誘致する。	東京都クラブリーグ委員会(仮称)を設立して運営していくのが望ましい。	当該年度の公認野球規則、社会人野球内規を適用する。ゴールドゲーム、延長戦、サスペンデッド等、クラブリーグ特別ルールの適用も考える。	
神奈川	基本的に休日に球場を使用したいが、現状では確保が難しい。球場使用料も抑えての確保はさらに難しくなる。高校・大学のグラウンドを借用すれば、自主運営リーグ戦実施の可能性は出てくる。但し、休日の使用が制限される恐れもある。クラブチーム側として球場確保に対する協会のバックアップをお願いしたい。	試合日程の作成は出来ると思うが、当初は協会の力が必要である。現状の大会日程は、3月に県大会、4月~5月に都市対抗1次、4月に足利大会、5月に新潟大会、8月に都市対抗2次、8月に日本選手権1次、9月に日本選手権2次、10月にびわこ大会と関東クラブ選手権となっており、日程的に無理がある。11月にしか時間は取れない。	審判員の確保は出来るが、試合数が増えると審判員交通費が負担になってくる。審判2人制により経費負担を少なくしたい。	企業とクラブのマネージャーで公式記録を担当しているため、公式記録が出来るクラブチームのマネージャーが増えてきているので確保できる。また、今後人員増を目指す。	1試合1ダース以下に抑える。両チームで試合球を負担する。また、大会などで使用したボールを再利用する。	審判員派遣料、球場使用料、試合球、審判員弁当代などの経費を少なく出来れば可能。例えば、審判の2人制、高校・大学のグラウンド使用。各大会で使用したボールの再利用など。	クラブ中心の運営には不安がある。今後仕事をリタイヤした方の補助が必要になってくる。	自主運営リーグはなかなか難しい。現場サイドには前向きな意見があるが、運営サイド(監督・マネージャー・コーチ)からは厳しい意見が強い。日程的にも経費的にも非常に厳しいので現行制度の中で参加していきたい。試合数が少ないと感じるクラブがあるが、やはり、上に繋がっている意味のある大会を目指しているのが今のままがよいと考える。試合数が少ないチームはオープン戦を増やしてレベルを上げることでリーグ戦を行うより経費負担はかからない。リーグ戦は、審判経費、球場使用料、試合球等の負担がそのまま各クラブチームにかかると思う。	神奈川県としては来年度以降に支援を申し出ている外部団体から県内のクラブチームを対象にした大会開催の意向があるため、その実施と成功に力を注ぎたい。クラブチームの育成とともに地域の子供や学生たちに野球教室や試合を通じて社会人野球をもっとほしいこと。プロ野球とは違った社会人野球の持つその真実さ、野球に対する技術はもともと生誕スポーツとしての野球を知ることで将来の目標と合わせて野球の素晴らしさを学んでほしいという考えの下地域貢献をしていきたいというもの。そして、将来的には神奈川県内の企業チームを招待し、アマチュア最高レベルの野球を将来担う子供たちに身近に見せたいというもの。
山梨	山梨県は年度当初に年間予定がQ決まる。急な日程は無理。また、山梨県はグラウンドが少ない。	都市対抗1次、2次、クラブ選手権1次、2次、日本選手権1次、2次の合同に実施する。	球審は件連盟にて確保、塁審は各チームで充てる。	試合のないチームで分担する。	チームの持ち寄り(半ダースずつ)	各チームで費用を分担、連盟からの支援が必要。	各チームが委員を立てて運営に当たる。	将来的には必要と思われる。	